

# 灰が目には：視力低下も

## 火口周辺の住民に多く 異常感じたら受診を

**新燃岳  
噴火**  
がんばってご宮崎

新燃岳の噴火に伴う降灰で、火口周辺では目に違和感を訴える住民が後を絶たない。中には目に入った火山灰の影響で視力が急激に

落ちたケースもあり、眼科医は「異常を感じたら受診を」と呼びかけている。

都城市立野町、南九州大1年の桐生将隆さん(19)は新燃岳が噴火した1月26日夕、灰が左目に入った。「痛くてずっと涙が止まらなかった。目をこらしたら左右で見え方が違っ

ていた。抗生剤の目薬などで間もなく回復したが、桐生さんは「また入ったらと思うと怖い。今は車とすれ違っただけでも目を細めるようになった」と話す。灰は通常、涙や目薬で流れて重症化しない例が多いが、放置すれば目を傷つける恐れもある。

都城市蔵原町、宮田

眼科病院(宮田和典院

.....

【川上珠実】



新燃岳が噴火した後、都城市内は降灰で街がかすんだ

た。「こんなのがまぶたの裏に刺さってしまいましたよ」。医師がヒントで取り除いた灰は、とがっているのが肉眼でも分かった。火山灰の大きさの定義は直径2<sup>ミクロン</sup>以下。軽石が砕け、断面が鋭いのが特徴だ。

1・0だった左目の視力は0・3に下がっ

長では、定期健診などで来院した患者110人を対象に2月10日、独自のアンケート(複数回答)を実施。7割が「灰が目に入った経験がある」と回答した。

症状は「異物感」が47人と最も多く▽痛み▽涙が出る▽かゆみ▽が続いた。

宮田院長は「こんなに多いとは思わなかった。実際、灰が目に入ったとして受診する患者は少ないが、普通之道を歩いて目に入ったケースが多い」と話した。